

『中学社会 歴史的分野』

学習指導計画作成資料

■歴史的分野 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

	(1)	(2)	(3)
目標	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

(中学校学習指導要領 P. 48)

■歴史的分野 評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

(平成 31 年 3 月 29 日付け 30 文科初第 1845 号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」の「〔別紙 4〕各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨」P. 4 引用)

※歴史的分野の学習指導要領の目標を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理した表です。

		<p>り返り、自己の学びを確認したり調整したりするとともに、中学校の歴史学習へのつながりを見いだす。</p>	<p>身の学びを確認、調整するとともに、中学校での歴史学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>
3 4	年代・時代区分のあらわし方（教科書P. 8-9）	<p>○年代の表し方（西暦・世紀・年号）および時代区分の方法について理解し、年代や時代を結びつけながら理解する。</p> <p>○歴史的な事象を西暦、世紀、年号（元号）や時代区分などで表現したり、日本の時代区分の由来を考え、時代名を分類したりしている。</p>	<p>知識・技能 年代の表し方（西暦・世紀・年号）および時代区分の方法をとらえ、年代や時代を結びつけながら理解している。</p> <p>思考・判断・表現 できごとのあった年を西暦、世紀、年号（元号）や時代区分などで表現するとともに、日本の時代区分の由来を考え、時代名を分類している。</p>
5 6	「歴史的な見方・考え方」とは？（教科書P. 10-11）	<p>○一つの歴史事象に対して四つの異なる「歴史的な見方・考え方」を働かせ、他の歴史的な事象と関係づけて考え、表現する。</p> <p>○「歴史的な見方・考え方」を働かせ、課題に対して主体的に追究しようとする態度を養う。</p>	<p>思考・判断・表現 前時の歴史カードに対し、「時系列」「推移」「比較」「つながり」という「歴史的な見方・考え方」から関係づけられるカードを見つけたり作ったりしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 学んだ「歴史的な見方・考え方」を働かせ、複数のカードを関係づけながら課題を追究しようとしている。</p>

第2節 身近な地域の歴史の探究

学習指導要領の内容：A（2）

第2節の目標	
	<p>○具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につける。</p> <p>○比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。</p>
<p>（★ 第2節の 評価規 準に 用いる 評価）</p>	<p>知識・技能★ ・具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。</p> <p>思考・判断・表現★ ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度★ ・自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
※	1 テーマを決めて調査の準備をしよう（教科書P. 12-13） ・学習のはじめに ・①調査のテーマを決めよう ・②テーマについて調べよう	○地域の歴史に関する情報を収集する方法を理解し、情報カードの作成を通じて調査課題を決定するための準備をする。 ○身近な地域にある史跡や建造物、文化財などに着目し、地域調査のテーマを決め、その意義について考え、表現する。	知識・技能 身近な地域の歴史に関する情報カードを作成して、テーマの決定から調査する課題を決めるための準備をしている。 思考・判断・表現 身近な地域の歴史的な人物や出来事、伝統文化などと、現在の私たちとのつながりに着目して調査テーマを決定し、その意義について考え、表現している。
※	2 課題を設定して、調査しよう（教科書P. 14-15） ・③調査の課題を設定しよう ・④調査をしよう	○作成した情報カードの整理・分類から、テーマに関する調査の課題を設定して、より探究的な地域調査を行う方法を理解する。 ○地域の現地視察や各施設見学、聞き取りなどを行い、集めた情報から明らかになった調査の結果を、わかりやすく表現する。	知識・技能 テーマ設定に沿った歴史的な地域調査の課題を立案し、調査する具体的な手段や方法を理解している。 思考・判断・表現 計画に沿った文献調査やそれぞれの施設見学、聞き取りなどで集めた情報を基に、調査の結果についてわかりやすく表現している。
※	3 考察し、まとめたことを報告しよう（教科書P. 16-17） ・⑤調査したことをまとめよう ・⑥調査したことを伝えよう ・活動をふり返ってみよう	○調査の結果について、時系列や推移、比較、つながりに着目して考察し、他者に論理的で分かりやすく伝えられるような発表・報告を考え、表現する。 ○自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもち、調査結果の考察を通して、史跡や文化財などの歴史的な意義について追究しようとする態度を養う。	思考・判断・表現 課題に応じて調査したことを分析・判断して、出典とともにまとめ、それを分かりやすく伝えるために工夫した発表を考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 調査の結果を基に、身近な地域に残る史跡や文化財などの歴史的な意義について、関心をもって追究しようとしている。

※第1編第2節と第2～6編に設定した「でかけよう！地域調べ」（6時間配当）は、予備時間（16時間）を利用して実施することを想定。

第2編の目標	
<p>○古代までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○古代までの日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○古代までの日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第2編の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。</p> <p>【第2編の問い】 日本という国はどのように生まれ、発達していったのでしょうか。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl;">（★評価に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第2編の評価規準</p>	<p>知識・技能★ ・古代までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p> <p>思考・判断・表現★ ・古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや東アジアとの交流と天皇や貴族の政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、古代までの社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度★ ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、古代までの日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・古代までの日本と世界の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、古代までの時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
7	<p>【学習のはじめに】 原始と古代の日本のようすを比べよう（教科書P. 18-19） 年表と地図を読み取ろう（教科書P. 20-21）</p>	<p>○想像図などの読み取りを通して、古代までイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取る。</p> <p>○古代までの日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>知識・技能 想像図などの読み取りを通して、古代までイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 小学校での学習などを基に、編の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>

第1節の目標	
<p>○人類の誕生や世界の古代文明や宗教のおこりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解する。</p> <p>○人類の進化の移り変わりや古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の各地で文明が築かれたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第1節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認</p>	

識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第1節の問い】

世界では、どのようにして国家や文明が生まれたのでしょうか。

(★評価に用いる評価) 第1節の評価規準	知識・技能★
	・ 人類の誕生や世界の古代文明や宗教のおこりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。
	思考・判断・表現★
	・ 人類の進化の移り変わりや古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、世界の各地で文明が築かれたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	・ 第1節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
8	1 人類の出現 (教科書 P. 22-23) ・ 人類の誕生と進化 ・ 農耕と牧畜の始まり	○人類の進化の過程をつかみ、各段階の人類の特徴を理解する。 ○気候の変動と関連づけて、狩猟・採集から農耕・牧畜へと生活が変化するようすを考え、表現する。	知識・技能 人類が猿人、原人、旧人、新人へと進化してきた過程をつかみ、それぞれの段階の特徴を理解している。 思考・判断・表現 人類の暮らしについて、新石器時代の気候の温暖化と関連づけて、採集・狩猟生活から農耕・牧畜生活へ変化したことを考え、表現している。
9	2 古代文明の誕生 (教科書 P. 24-25) ・ 文明の始まり ・ メソポタミア文明 ・ エジプト文明 ・ インダス文明	○資料を活用しながら、古代文明がおこった場所の共通点を理解する。 ○古代文明のおこりを、地形・文字・建築物などに着目して考え、表現する。	知識・技能 メソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明などがいずれも農耕・牧畜が発展しやすい大河の流域でおこったことを理解している。 思考・判断・表現 それぞれの古代文明に文字の使用や都市の建設がみられたことなど、共通する特徴を考え、表現している。
10	3 中国の文明と東アジア世界 (教科書 P. 26-27) ・ 中国の文明 ・ 統一国家の誕生 ・ 朝鮮半島の国々	○中国文明のおこりをオリエントの古代文明との比較を通して考え、殷から漢にいたる各時代の特徴を理解する。 ○万里の長城が築かれた背景や漢の時代に東西文化の交流によって起こった変化を考え、表現する。	知識・技能 各時代の特徴について、国家が領土や支配地を治めるために整えたしくみの変化をとらえて理解している。 思考・判断・表現 万里の長城が国を守るために築かれたことや、シルクロードが開かれたことで各地の文物が運ばれ、その文化が周辺の国々へ影響をあたえたことを考え、表現している。
11	4 ギリシャ・ローマの文明 (教科書 P. 28-29) ・ 都市国家の成立 ・ アテネの民主政	○イタリア半島の都市国家であったローマが、地中海を取り巻く大帝国内に発展し、共和政から帝政へ	知識・技能 地中海沿岸に都市国家が成立し、アテネでは民主政が発達したこと、共和政をとっていたローマが、紀元前

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘレニズム時代 ・ローマ帝国の繁栄 	<p>と変わっていったことを理解する。</p> <p>○ギリシャ・ローマの民主政や共和政と現代の政治を比較し、共通点と相違点について考え、表現する。</p>	<p>1世紀末には帝政に変わったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 アテネやローマで生み出された民主政や共和政の特徴について考え、表現している。</p>
12	<p>5 文明と宗教 (教科書 P. 30-31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教のおこり ・仏教 ・キリスト教 ・イスラム教 	<p>○現在の世界に大きな影響を与えている宗教が、どのようにしておこったのかについて理解する。</p> <p>○仏教・キリスト教・イスラム教がおこった地域が、それぞれインド、西アジアなどの文明がおこった地域と重なることを考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 三大宗教について、おこった地域や広まっていく過程に着目して、宗祖・教え・年代などを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 古代文明と主な宗教がおこった場所を示した地図から情報を取り出し、文明がおこった地域で宗教もおこっているという共通点を考え、表現している。</p>

第2節 日本列島の人々と国家の形成

学習指導要領の内容：B（1）

第2節の目標	
<p>○日本列島での農耕の広まりや東アジアとの関わりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成され、国家のしくみが整えられていったことを理解する。</p> <p>○農耕の始まりや生産技術の発展の影響や東アジアとの交流による政治の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国家の形成について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第2節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第2節の問い】 日本列島ではどのように社会がまとまり、国家が形づくられていったのでしょうか。</p>	
<p>★ 第2節の 評価規 準に 用いる 評価</p>	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本列島における農耕の広まりや当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一のようすと東アジアとの関わりを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されたことを理解している。 ・仏教の伝来、律令国家の確立に至るまでの過程などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられていったことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農耕の始まりや生産技術の発展の影響や東アジアとの交流による政治の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国家の形成について多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
13	1 日本人のルーツと縄文時代 (教科書 P. 32-33)	○気候の変化にともなって、日本列島に日本人のルーツとなる人々がどのよう	知識・技能 本文や資料から、縄文時代の人々のくらしのようすを、衣食住や習慣

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島の形成 ・縄文時代の始まり ・縄文時代の人々の暮らし 	<p>に登場して、くらしてきたのかを理解する。</p> <p>○旧石器時代より、当時の人々が気候と環境の変化に適応しながら、どのように豊かな生活を営んできたかを比較して考え、表現する。</p>	<p>を通して理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>人々が、環境の変化に適応できたことに着目し、生活を豊かにしようとしたことを、過去の生活と比較して考え、表現している。</p>
14	<p>2 稲作の広まりと弥生時代 (教科書 P. 34-35)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作の広まり ・ムラからクニへ ・邪馬台国 	<p>○朝鮮半島からの渡来人がもたらした稲作が西日本中心に広がり、人々にどのような生活や社会の変化をもたらしたかを理解する。</p> <p>○稲作などの生産技術の広がりによる暮らしの変化とムラからクニへ成長した社会の変化との関連を考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>稲作の広がりや、弥生時代の人々の暮らしや社会の変化、またムラ同士の争いからクニが誕生したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>稲作の普及や生産技術の発展が人々の暮らしや社会に変化をもたらしたことを考え、表現している。</p>
15	<p>3 ヤマト王権と渡来人 (教科書 P. 36-37)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巨大な古墳とヤマト王権 ・大王・豪族と人々の生活 ・中国・朝鮮との交流と渡来人 	<p>○前方後円墳の分布の広がりや中国大陸との関係を通して、ヤマト王権による日本の統一を理解する。</p> <p>○中国や朝鮮との関係と渡来人による先進的な技術や知識などの伝来が、ヤマト王権の政治・文化・暮らしに与えた影響を考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>前方後円墳の分布の広がりや中国の歴史書の倭に関する記述から、ヤマト王権による日本の統一を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>渡来人がもたらした技術や文化が、ヤマト王権の日本統一の動きや社会に与えた影響を考え、表現している。</p>
16	<p>【チャレンジ歴史】</p> <p>考古学に挑戦！ よろいを着た人物のなぞを解こう (教科書 P. 38-39)</p>	<p>○金井東裏遺跡の考古資料を読み取り、当時のようすを理解する。</p> <p>○遺跡に関する地理的な情報や他の出土物等の資料を基に、発見されたよろいを着た人物について考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>複数の考古資料から適切な情報を読み取り、総合することで金井東裏遺跡の当時のようすについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>よろいを着た人物はどのような人だったのか、資料を基に考え、表現している。</p>
17	<p>4 東アジアの統一国家 (教科書 P. 40-41)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隋・唐による中国統一 ・国際都市長安 ・新羅の朝鮮半島統一 	<p>○隋・唐の中央集権国家のしくみである律令のしくみと、周辺国家との関係を理解する。</p> <p>○ヤマト王権と隋・唐の国家や支配のしくみを比較することにより、その違いを考え、表現する。</p>	<p>知識・技能</p> <p>統一国家をつくり上げた隋や唐の国のしくみが、巨大帝国の基盤であることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>隋や唐から受けた朝鮮半島や日本の政治的、外交的な影響について考え、表現している。</p>
18	<p>5 聖徳太子と飛鳥文化 (教科書 P. 42-43)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘇我氏と聖徳太子 	<p>○資料の読み取りなどから、聖徳太子が行った国内政治と外交の業績を仏教中</p>	<p>知識・技能</p> <p>聖徳太子が行った国内政治と外交の業績についてまとめ、仏教中心の</p>

	・飛鳥文化	心の文化をふまえて理解する。 ○蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の共通性に着目することによって、それらを行ったねらいについて考え、表現する。	文化をふまえて理解している。 思考・判断・表現 蘇我氏や聖徳太子が定めた制度や進めた事業の共通性に着目して、そのような政治を行ったねらいについて考え、表現している。
19	6 律令国家の成立 (教科書 P. 44-45) ・大化の改新 ・天智天皇 ・律令国家の成立	○天智天皇から持統天皇へと律令国家をめざして進められた政治改革を理解する。 ○東アジアの情勢の変化により、唐に対応できる国づくりをめざした政治の推移を理解し、表現する。	知識・技能 天智天皇から持統天皇へと律令国家をめざして進められた政治改革を理解している。 思考・判断・表現 東アジアの情勢の変化により、唐に対応できる国づくりをめざした政治の推移を理解し、表現している。

第3節 古代国家の展開

学習指導要領の内容：B（1）

第3節の目標	
<p>○撰関政治や仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、天皇や貴族による政治が展開したことや国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解する。</p> <p>○律令国家の政治の展開やその目的、東アジアの状況の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、天皇や貴族による政治や文化の展開について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第3節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第3節の問い】 律令国家の政治と文化は、各時代においてどのように移り変わっていったのでしょうか。</p>	
<p>★ 第3節の評価規準 に用いる評価</p>	<p>知識・技能★ ・撰関政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ・仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ ・律令国家の政治の展開やその目的、東アジアの状況の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、天皇や貴族による政治や文化の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・第3節の問いを追究する際に、第2編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
20	1 奈良の都と人々のくらし (教科書 P. 46-47) ・奈良の都 ・律令国家のもとでのくらし	○資料の読み取りを通し、天皇を頂点として、皇族や貴族・役人が全国を支配する中央集権国家のしくみが整ったことを理解する。	知識・技能 天皇を頂点として、皇族や貴族が全国を支配する中央集権国家のしくみが整ったことを理解している。 思考・判断・表現

		る。 ○調べたことを基にした話し合いを通し、律令国家における班田収授の矛盾点や公地公民制度の崩れについて考え、表現する。	律令国家において税制度が整っていく一方で、班田収授の矛盾や公地公民制度の崩れにつながっていったことについて考え、表現している。
21	2 天平文化と聖武天皇 (教科書 P. 48-50) ・天平文化 ・万葉集と歴史書	○天平文化について調べる活動を通して、仏教が一層盛んになった影響を受けていることや、天皇の由来をまとめた書物が編纂されたことを理解する。 ○調べたことを基に、天平文化が西アジアなどにつながる唐の影響を受けた国際色豊かな文化であることを考え、表現する。	知識・技能 天平文化は仏教が一層盛んになった影響を受けていることや、天皇の由来をまとめた書物が編纂されたことを理解している。 思考・判断・表現 天平文化が、仏教や西アジアや南アジアとつながる唐の影響を受けた国際色豊かな文化であることを考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 日本の神話 (教科書 P. 51)	○奈良時代にまとめられた『古事記』『日本書紀』の内容について理解する。 ○神話を通して現代の私たちが何をすることができるかを考え、表現する。	知識・技能 『古事記』『日本書紀』が天皇や貴族の祖先とされる神々の行いと、天皇を中心とする国家の成り立ちをえがいたことを理解している。 思考・判断・表現 神話を、その時代の人々の信仰やものの見方を知る手がかりになるものと考え、表現している。
22	3 平安京と桓武天皇 (教科書 P. 52-53) ・平安の都 ・東北地方の支配 ・最澄と空海	○資料の読み取りを通して、桓武天皇が律令制の再建をねらいとして政治を進めたことや、東北地方の支配拡大を行ったことを理解する。 ○話し合いを通して、都を京都に移して政治を進めた桓武天皇のねらいについて、新しい仏教の動きを関連させながら考え、表現する。	知識・技能 桓武天皇が律令制の再建をねらいとして政治を進めたことや、東北地方の支配拡大を行ったことについて理解している。 思考・判断・表現 都を京都に移して政治を進めた桓武天皇のねらいについて、新しい仏教の動きを関連させながら考え、表現している。
23	4 摂関政治 (教科書 P. 54-55) ・摂関政治と地方行政 ・東アジアの変化	○資料を基にした話し合いを通して、藤原氏を中心となった摂関政治は、地方政治を乱すことにつながったことを理解する。 ○資料の読み取りを通して、中央集権国家のしくみが、藤原氏による貴族の政治(摂関政治)によりくずれていったことを考え、表現する。	知識・技能 藤原氏を中心となった摂関政治は、地方政治を乱すことにつながったことを理解している。 思考・判断・表現 天皇を頂点とした中央集権国家のしくみが、藤原氏による貴族の政治(摂関政治)によりくずれていったことを考え、表現している。

24	<p>5 国風文化（教科書 P. 56-57）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本風の文化 ・かな文字と文学 ・浄土信仰 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りや話し合いを通して、文化の国風化が進んだことについて、東アジアとの歴史的な背景をふまえて理解する。 ○資料の読み取りや話し合いを通して、東アジアの変化を背景に、日本の風土やくらしに合った文化が発達したことを考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>文化の国風化が進んだことについて、東アジアとの歴史的な背景をふまえて理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>東アジアの変化を背景に、貴族の間で日本の風土やくらしに合った文化が発達したことを考え、表現している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】</p> <p>文化財を守り伝える仕事（教科書 P. 58-59）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の保存・修復の取り組みを学び、保存修理の方法や意義を理解する。 ○文化財に関心をもつとともに、未来に継承していくことの重要性が高まっていることを考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>文化財の保存・修復を手がける具体的な取り組みを学び、保存修理の方法や文化財を保存修理することの意義について理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>文化財に関心をもつとともに、未来に継承していくことの重要性が高まっていることを考え、表現している。</p>
※	<p>【でかけよう！地域調べ】</p> <p>平城宮跡を歩く（教科書 P.60-61）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な地域にある史跡見学の方法や調査方法を身につけ、調査内容をまとめる。 ○調査した内容を基に、身近な地域の特徴を考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>史跡見学で収集した資料を活用し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>史跡見学で調査した内容を基に、身近な地域の歴史的な特徴を考え、表現している。</p>
25	<p>【まとめと振り返り】</p> <p>（教科書 P.62-63）</p> <p>編の学習を確認し、「古代まで」の特色をつかもう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○編の問いについて考察したことをふまえて、古代までの日本を代表するできごとや人物に着目し、古代までの特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○単元全体の自己の学習を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く中世の学習へつながる課題意識を醸成する。 	<p>思考・判断・表現</p> <p>編の問いを考察する活動とかるたづくりを通じて、古代までの日本を代表するできごとや人物に着目し、古代までの特色を多面的・多角的に考え、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>第2編における自己の学習の経過を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く中世の学習へつながる課題意識を醸成することができている。</p>

第3編の目標	
<p>○中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○中世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第3編の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。</p> <p>【第3編の問い】 たえず戦乱がくり返される時代となったのは、なぜなのでしょう。</p>	
<p>（★評定に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第3編の評価規準</p>	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。
	<p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・中世の日本の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、中世の時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

26	<p>【学習のはじめに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴族の屋敷と武士の館を比べよう（教科書 P.64-65） ・ 年表と地図を読み取ろう（教科書 P.66-67） 	<p>○絵巻物の読み取りを通して、中世のイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取る。</p> <p>○中世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>知識・技能</p> <p>絵巻物の読み取りを通して、中世のイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>小学校での学習などを基に、編の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>
----	--	--	---

第1節の目標	
<p>○武士の登場や院政、平氏の政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が次第に力をつけていったことを理解する。</p> <p>○武士と皇族・貴族との関係や貴族の政治と武士の政治のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が次第に力をつけていったことを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第1節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第1節の問い】 武士の政権ができたのはなぜなのでしょう。</p>	

(★) 第1節の評価規準 第1節に用いる評価	知識・技能★
	・武士の登場や院政、平氏の政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が次第に力をつけていったことを理解している。
	思考・判断・表現★
	・武士と皇族・貴族との関係や貴族の政治と武士の政治のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が次第に力をつけていったことを多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度
	・第1節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
27	1 武士の登場 (教科書 P.68-69) ・武士のおこり ・東北地方の発展	○地方や都での武士のおこりやその成長などについてまとめ、武士が大きな勢力をもつようになったことを理解する。 ○律令制がおとろえるなかで地方や都に武士が現れたことをふまえ、武士がどのように力をつけていったのか考え、表現する。	知識・技能 武士のおこりやその成長についてまとめ、武士が貴族に代わって大きな役割を担い、力をつけていったことを理解している。 思考・判断・表現 律令制の解体に伴い、武士が地方や都に現れ、朝廷に代わって地方の反乱や争いをしずめるなどして、力をつけていったことを考え、表現している。
28	2 院政と平氏政権 (教科書 P.70-71) ・院政 ・平氏の政治	○摂関政治との比較などを通して院政の特徴を理解するとともに、社会状況の変化により武士が政治に関与し始めたことを理解する。 ○武士である平氏が貴族的な側面をもって台頭したことをふまえ、どのような政治を行おうとしたかについて考え、表現する。	知識・技能 父方の上皇が実権をにぎるといいう院政の特徴や、荘園・公領の管理を行うようになった武士の政治的関与が進んだことを理解している。 思考・判断・表現 平氏の政治が、日宋貿易を進める一方で、娘を天皇のきさきにするなど貴族的な側面をもつものであったことを考え、表現している。

第2節 鎌倉幕府の成立

学習指導要領の内容：B(2)

第2節の目標
○鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解する。
○幕府と御家人の関係や農業や商工業の発達、国内と外国をむかえた戦いのちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
○第2節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。
【第2節の問い】 鎌倉幕府の成立やユーラシア大陸からの影響は、社会をどのように変えたのでしょうか。

(★) 第2節の評価規準 に用いる評価	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立、元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 幕府と御家人の関係や農業や商工業の発達、国内と外国をむかえた戦いのちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。
------------------------	---

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
29	1 鎌倉幕府の政治 (教科書 P.72-73) ・源頼朝と鎌倉幕府 ・執権政治	<ul style="list-style-type: none"> ○将軍と御家人との間に主従関係が確立し、武士による政治の基盤がつけられたことを理解する。 ○将軍と御家人の御恩と奉公の関係から、鎌倉幕府の政治の特徴や成立した理由を考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>将軍と御家人との間に主従関係が確立し、守護・地頭を設置する範囲を広げるなど、武士による政治の基盤がつけられたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>鎌倉幕府の政治が、将軍と御家人の御恩と奉公の関係を基に成立していたことを考え、表現している。</p>
30	【チャレンジ歴史】 承久の乱を通して、古代から中世への変化を考えよう (教科書 P.74-75)	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りや比較などを通して、承久の乱をきっかけに武家の全国支配が確立していったことを理解する。 ○幕府と御家人の関係に着目し、古代の政治とのちがいをふまえながら中世の社会構造の特徴について考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>承久の乱の後、鎌倉幕府の支配領域が東国から全国に広がっていったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>天皇や貴族が政治を進めてきた古代と、武士の全国的な支配が確立した中世のちがいから、中世の社会構造の特徴について考え、表現している。</p>
31	2 鎌倉時代の人々のくらし (教科書 P.76-77) ・京都と鎌倉 ・武士と農民 ・農業と商業の発達	<ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉時代に武士が力を強めるなかで、農民は武士や荘園領主から二重支配を受けたことを理解する。 ○二毛作の広まりや定期市の開催、貨幣経済の進展などから、社会や人々のくらしの変化を考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>鎌倉時代に武士が力を強める中で、農民は武士や荘園領主から二重支配を受けたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>二毛作の広まりや定期市の開催、貨幣経済の進展などにより、社会や人々のくらしが向上したことを考え、表現している。</p>
32	3 鎌倉時代の文化と仏教 (教科書 P.78-81) ・鎌倉時代の文化 ・鎌倉仏教	<ul style="list-style-type: none"> ○戦乱やききんなどの社会情勢から、人々の悩みにこたえる仏教の新しい動きがみられ、武家や民衆に広がったことを理解する。 	<p>知識・技能</p> <p>戦乱やききんなどの社会情勢から、人々のなやみにこたえる仏教の新しい動きがみられ、武家や民衆に広がったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p>

		○古代の文化との比較から、鎌倉時代の文化の特徴を考え、表現する。	古代の文化との比較から、鎌倉時代の文化が、武士や民衆にもわかりやすく、また武士の気風にあった文化であることを考え、表現している。
33	4 元の襲来と鎌倉幕府 (教科書 P.82-84) ・強大なモンゴル帝国 ・元の襲来 ・鎌倉幕府のおとろえ	○東アジアの情勢の変化の中で元軍が日本に襲来したことや、元寇への幕府の対応と幕府政治のゆらぎについて理解する。 ○鎌倉幕府がおとろえた理由を、国内の戦いとの違いや元寇後の御家人の窮乏、主従関係のゆらぎから考え、表現する。	知識・技能 東アジアの情勢の変化の中で元軍が日本に襲来したことや、それに対する幕府の対応を理解している。 思考・判断・表現 国内の戦いとのちがいがもたらした元寇後の御家人の窮乏と、幕府の対応による主従関係のゆらぎをふまえて、鎌倉幕府がおとろえた理由について考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 変わる土地制度 (教科書 P.85)	○古代から中世にかけて、班田制から荘園公領制へと移り変わったことを理解する。 ○古代の班田制と比較しながら、中世の土地制度の特徴について考え、表現する。	知識・技能 平安時代に班田収授の実施が難しくなり、やがて荘園公領制という新しい土地制度に移り変わったことを理解している。 思考・判断・表現 寄進地系荘園が増加した理由を整理し、中世の土地制度の特徴について考え、表現している。

第3節 室町幕府と下剋上

学習指導要領の内容：B (2)

第3節の目標

- 南北朝の動乱と室町幕府、日明貿易、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことや民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。
- 東アジアにおける交流、応仁の乱の影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第3節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第3節の問い】

民衆の成長によって、社会や文化はどのように変わったのでしょうか。

知識・技能★

- ・南北朝の動乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解している。
- ・農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。

思考・判断・表現★

- ・東アジアにおける交流、応仁の乱の影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

(★) 第3節の評価規準
に用いる評価

主体的に学習に取り組む態度

・第3節の問いを追究する際に、第3編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
34	1 南北朝の動乱と室町幕府（教科書 P.86-87） ・建武の新政 ・南北朝の動乱 ・守護大名と室町幕府	○鎌倉幕府と室町幕府の違いを読み取り、どのように朝廷や守護大名をおさえていったのかを理解する。 ○朝廷の伝統的な権威や荘園を、室町幕府がどのように吸収したのか、それによって民衆の生活がどのように変化したのかを考え、表現する。	知識・技能 鎌倉幕府と室町幕府のちがいを読み取り、室町幕府が朝廷や守護大名といった敵対勢力をどのようにおさえたのかを理解している。 思考・判断・表現 朝廷の伝統的な権威や荘園を、室町幕府がどのように吸収し、それによる農民などの民衆の生活がどのように変化したのか、事実を根拠に考え、表現している。
35	2 東アジアとの交流（教科書 P.88-89） ・明とのかかわり ・朝鮮とのかかわり	○倭寇と勘合貿易との関連について理解する。 ○足利義満が、南北朝の合一を果たしたことや金融業者の保護や貿易といった経済力に着目して権力を強めようとしたことを考え、貿易を重視した理由を表現する。	知識・技能 資料の読み取りを通して、倭寇と勘合貿易との関連について理解している。 思考・判断・表現 足利義満が、守護大名を抑えて南北朝の合一を果たしたことで、貿易による利益を幕府の財源としていたこととのつながりを考え、義満が貿易を重視した理由を説明している。
36	3 琉球王国とアイヌ民族（教科書 P.90-91） ・中世の琉球やアイヌ ・中継貿易の展開 ・琉球の文化	○15世紀初めに琉球王国が成立し、蝦夷地ではアイヌ民族が13世紀ごろにアイヌ文化を成立させたことを理解する。 ○琉球王国やアイヌ民族の交易について理解し、周辺国との関係や、交易が互いの産業や文化、政治に及ぼした変化や影響について考え、表現する。	知識・技能 15世紀初めに琉球王国が成立し、蝦夷地ではアイヌ民族が13世紀ごろにアイヌ文化を成立させたことを理解している。 思考・判断・表現 琉球王国やアイヌ民族の交易について理解し、周辺国との関係や、交易が互いの産業や文化、政治に及ぼした変化や影響について考え、表現している。
37	4 産業の発展と都市と村（教科書 P.92-93） ・商人・手工業者の成長 ・都市と交通の発達 ・村の自治と土一揆	○産業の発達に伴い、どのようにして民衆は力を強めたのかについて理解する。 ○産業の発展により、室町時代の人々の生活や意識がどのように変化したのかを考え、表現する。	知識・技能 産業の発達によって都市や村が発達して、村では惣とよばれる自治組織のもと、農民が団結を強めたことを理解している。 思考・判断・表現 鎌倉時代とのちがいに着目し、室町時代の商業と手工業の発達が経済を活発にさせ、人々の生活が向上したことを考え、表現している。

38	<p>5 応仁の乱と戦国大名 (教科書 P.94-95)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応仁の乱 ・ 自治の広まり ・ 戦国大名 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 争いや戦乱が絶えず、農民・商人の自治や戦国大名が生まれ、室町幕府の勢力がおとろえて戦国時代になっていったことを理解する。 ○ 下剋上の風潮が広がるなかで、戦国大名が領国支配のためにどのような工夫をしたのかを考え、表現する。 	<p>知識・技能 各地で自治を行う民衆が現れたことを、応仁の乱による幕府の勢力のおとろえと関連させて理解している。</p> <p>思考・判断・表現 下剋上の風潮のなかで戦国大名が現れ、領国支配のため分国法を定めたり、城下町をつくったりしたことを考え、表現している。</p>
39	<p>5 室町時代の文化とその広がり (教科書 P.96-99)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 室町時代の文化 ・ 文化の広がり ・ 民衆文化の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 室町時代の文化が、応仁の乱や民衆の成長を背景にしていることを理解する。 ○ 室町時代の文化の特徴について、武家と公家や中国との関係をふまえて考え、表現する。 	<p>知識・技能 応仁の乱により文化が地方へ広がったことや民衆文化の高まり、差別されていた人々も文化の担い手として活躍したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 室町時代の文化について、武家と公家の文化が混ざり合ったものであることと、禅宗の影響も受けたものであることを考え、表現している。</p>
※	<p>【でかけよう！地域調べ】 草戸千軒町遺跡を調べる (教科書 P.100-101)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査したテーマについて、集めた資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に整理したり選択したりして、効果的な表現方法を考え、まとめる。 ○ 身近な地域の歴史に関心を持ち、調査の仕方や考察したことのまとめ方を工夫して、主体的に追究しようとする態度を養う。 	<p>思考・判断・表現 調査したテーマについて、集めた資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に整理したり選択したりして、効果的な表現方法を考え、工夫しながら新聞にまとめている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 身近な地域の歴史に関心を持ち、調査の仕方や考察したことのまとめ方を工夫して、主体的に追究しようとしている。</p>
40	<p>【まとめと振り返り】 (教科書 P.102-103) 編の学習を確認し、「中世」の特色をつかもう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 編の問いについて考察したことをふまえて、古代と中世の「法」に着目し、中世の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○ 単元全体の自己の学習を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近世の学習へつながる課題意識を醸成する。 	<p>思考・判断・表現 編の問いを考察する活動と古代と中世を比較する活動を通じて「法」に着目し、中世の特色を多面的・多角的に考え、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 第3編における自己の学習の経過を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近世の学習へつながる課題意識を醸成することができている。</p>

第4編の目標	
<p>○近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○近世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○近世の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第4編の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。</p> <p>【第4編の問い】 戦乱のない安定した時代は、どのように続いたのでしょうか。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl;">（★評定に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第4編の評価規準</p>	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 近世の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 近世の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度★</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 近世の日本と世界の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、近世の時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

第4編

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
41	<p>【学習のはじめに】 将軍が政治を行った建物を比べよう (教科書 P. 104-105) 年表と地図を読み取ろう (教科書 P. 106-107)</p>	<p>○屏風絵の読み取りを通して近世のイメージをつかみ、年表と地図から安土・桃山時代から江戸時代にかけての日本と世界の流れや、世界の国々のつながりを読み取る。</p> <p>○近世の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>知識・技能 屏風絵から近世をイメージし、年表と地図から当時の近世の日本で起きたできごとや世界の国々がどのようにつながっていたのかを読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 小学校での学習などを基に、編の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>

第1節の目標	
<p>○ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。</p> <p>○交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世社会の基礎がつけられたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p>	

○第1節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第1節の問い】

ヨーロッパ人の来航や信長・秀吉の統一事業は、それまでの社会をどのように変えたのでしょうか。

(★評価に用いる評価)	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世社会の基礎がつけられたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。
-------------	---

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
42	<p>1 イスラム教の世界とキリスト教の世界 (教科書 P. 108-109)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教の世界の発展 ・キリスト教の世界の変化とルネサンス ・宗教改革 	<ul style="list-style-type: none"> ○イスラム教の世界の発展を背景としたキリスト教の世界の変革を具体的な事象を基に理解する。 ○イスラム教の世界が繁栄した理由を、文化や交易の関連から考え、適切に表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>イスラム教の世界の発展と拡大の影響を受けたキリスト教の世界では、ルネサンスや宗教改革の動きが起こり、やがてアジアやアメリカへの進出につながったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>イスラム教の世界の繁栄や、キリスト教の世界の変容について、二つの世界の交流に着目して考え、表現している。</p>
43	<p>2 つながれてゆく世界 (教科書 P. 110-111)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教国による新航路の開拓 ・一体化する世界 	<ul style="list-style-type: none"> ○新航路の発見により、他地域との交易や植民地化が進められ、世界が一体化していったことを理解する。 ○15世紀末のヨーロッパにおいて、莫大な資金や労力で新航路を開いた理由を考え、事例をあげて表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>新航路の発見が、ヨーロッパと他地域との交易を盛んにすると同時に、ヨーロッパ諸国を中心に世界の一体化が始まったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>ヨーロッパ諸国が新航路を開いた地域や目的に着目し、15世紀末以降の世界が一体化していった理由を考え、表現している。</p>
44	<p>3 ヨーロッパ人の来航と信長 (教科書 P. 112-113)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄砲とキリスト教の伝来 ・織田信長の統一事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヨーロッパ人が伝えた鉄砲・キリスト教が、のちの日本社会に与えた影響を、具体的な事例を基に理解する。 ○織田信長の統一事業による日本社会の変化を、中世社会とのちがいに着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>織田信長の政策を整理し、そのねらいと中世に大きな力をもった勢力が力を失ったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>鉄砲とキリスト教が伝来した前後の社会の変化に着目し、ヨーロッパ人の来航が統一事業に与えた影響を考え、表現している。</p>

45	<p>4 秀吉による全国統一 (教科書 P. 114-115)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊臣秀吉の全国統一 ・太閤検地 ・刀狩 	<ul style="list-style-type: none"> ○秀吉が信長の事業を引き継ぎ、朝廷の権威を利用しながら全国統一を進めたことを理解する。 ○太閤検地や刀狩により、武士と百姓の兵農分離が進み、近世社会の基礎が築かれたことについて、諸政策の目的に着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能 信長の統一事業を引き継いだ豊臣秀吉が、朝廷の権威も利用しながら全国統一を成し遂げていったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 秀吉が太閤検地や刀狩を実施した目的に着目し、兵農分離を進め、全国を一律に支配する政策により近世社会の基礎がつけられたことを考え、表現している。</p>
46	<p>5 秀吉の海外政策 (教科書 P. 116-117)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアにおける貿易 ・秀吉の朝鮮への侵略 	<ul style="list-style-type: none"> ○南蛮貿易の展開など、秀吉が貿易重視の政策を進める一方で、朝鮮侵略を計画した理由を理解する。 ○秀吉の朝鮮侵略によって、日本と朝鮮の両国に与えた影響について日本と朝鮮の双方の視点で考え、表現する。 	<p>知識・技能 東アジアとの貿易を重視する一方で、朝鮮を侵略しようとした豊臣秀吉の意図を国内の政治や経済をふまえて理解している。</p> <p>思考・判断・表現 秀吉の朝鮮侵略について、日本・朝鮮の両国にどのような影響をあたえたのかに着目し、双方の視点から考え、表現している。</p>
47	<p>6 安土桃山時代の文化 (教科書 P. 118-119)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桃山文化 ・海外の文化の影響 	<ul style="list-style-type: none"> ○桃山文化の特徴を建築、絵画、工芸、芸能などの分野別に整理し、その特色を理解する。 ○桃山文化が生み出された背景について、個々の作品に着目しながら考え、具体的に表現する。 	<p>知識・技能 文化を建築、絵画、工芸、芸能などの分野別に整理してとらえ、大名や豪商などの富に支えられた文化であることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 大名や豪商の気風や経済力を背景として豪華・雄大な桃山文化が生み出されたことを、個々の作品に着目しながら考え、具体的に表現している。</p>
※	<p>【でかけよう！地域調べ】 城下町姫路を調べる (教科書 P. 120-121)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○城下町について、古地図を読み取り、現代に伝わる町名に着目するなど、身近な地域の歴史を調べる技能を身につける。 ○古地図の読み取りを通して、身近な地域の歴史的な特徴について主体的に追究しようとする態度を養う。 	<p>知識・技能 古地図から近世の城下町の名残を読み取るなど、施設を利用しながら地域の歴史について調べる技能を身につけている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 古地図の読み取りをきっかけにして、身近な地域の城下町について関心をもち、身近な地域の歴史的な特徴を主体的に追究しようとしている。</p>

第2節 江戸幕府の成立と東アジア

学習指導要領の内容：B (3)

第2節の目標	
<ul style="list-style-type: none"> ○江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ○統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 	

○第2節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第2節の問い】

江戸幕府は人々をどのように支配していたのでしょうか。

(★) 第2節の評価規準 評価に用いる評価	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村のようす、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 統一政権の諸政策の目的や幕府、藩、隣接地域の関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府と藩による支配が確立したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。
--------------------------	---

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
48	1 全国支配のしくみ (教科書 P. 122-123) ・徳川 260 年の基礎 ・将軍の大名支配	<ul style="list-style-type: none"> ○資料などの読み取りを通して、江戸幕府が成立した過程や幕府と藩による全国支配のしくみが確立したことを理解する。 ○幕府の大名統制の目的や方法に着目し、幕府の支配が長く続いた理由について、考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>幕府の成立過程や経済力、大名統制に関する政策の内容を基に、幕府と藩により全国を支配する仕組みが整えられたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>幕府が大名を統制し戦乱のない時期が続いた理由を、幕府の経済力や政策の目的に着目して考え、表現している。</p>
49	2 身分と職業が決められた社会 (教科書 P. 124-125) ・江戸時代の身分制 ・百姓と村 ・町人と町 ・差別された人々 ・家制度と身分	<ul style="list-style-type: none"> ○資料などの読み取りを通して、江戸時代の身分制の内容を理解する。 ○幕府が身分制を維持した理由について、百姓や町人に対する政策の共通点やちがいに着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>身分ごとの人々の暮らしのようすを基に、江戸幕府が定めた身分制の内容を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>武士が人々を長く支配することができた理由を、幕府や藩の百姓に対する政策の目的や家制度の内容に着目して考え、表現している。</p>
50	3 朱印船貿易から鎖国へ (教科書 P. 126-127) ・朱印船貿易 ・島原・天草一揆 ・鎖国	<ul style="list-style-type: none"> ○資料などを読み取り、幕府の対外政策の内容と変化について理解する。 ○幕府が友好的な外交から鎖国へと対外政策を変化させた理由を、貿易や宗教への対応に着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>朱印船貿易の内容と鎖国とよばれた政策の内容を基に、幕府の対外政策の推移を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>幕府が対外政策を変化させた理由を、宗教や貿易に着目して考え、表現している。</p>

51	<p>4 国外に開かれた四つの窓口（教科書 P. 128-129）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四つの窓口 ・中国・オランダとの貿易 ・朝鮮との国交回復 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の読み取りなどを通して、中国やオランダとの貿易、朝鮮との関係を中心に鎖国中の海外とのつながりについて理解する。 ○幕府が貿易に様々な制限をかけた理由を、情報や貿易の変化に着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能 中国やオランダ、朝鮮との交易の方法や内容を基に、幕府の対外政策や対外関係を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 幕府が中国やオランダや朝鮮との貿易に様々な制限を設けた理由を、情報や貿易に着目し考え、表現している。</p>
52	<p>5 周辺地域との関係（教科書 P. 130-131）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球王国 ・蝦夷地・アイヌ ・アイヌ文化の成熟 	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸幕府が、琉球王国や蝦夷地・アイヌをどのような関係をもったのかを理解する。 ○江戸幕府との関係が、琉球王国やアイヌの人々に与えた影響について考え、表現する。 	<p>知識・技能 江戸幕府の琉球王国やアイヌの人々への支配の内容を基に、幕府の対外政策や対外関係を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 琉球王国やアイヌの人々の社会の変化について、幕府との交易の影響に着目し考え、表現している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 今に伝わる琉球とアイヌ民族の文化の形成 （教科書 P. 132-133）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今に伝わる文化財などを基に、琉球やアイヌの文化が日本だけでなく世界においても重要な文化であることを理解する。 ○探究的な活動や話し合いなどの活動を通して、琉球やアイヌなど、独自の文化が果たしている役割や意義について考え、表現する。 	<p>知識・技能 他地域との交易のようすや今に伝わる文化財などを通じて、琉球やアイヌの文化の特色を理解する。</p> <p>思考・判断・表現 今に伝わる独自の文化が果たしている役割や意義について、琉球やアイヌの文化を通して考え、表現している。</p>

第3節 社会の変化と幕府政治の改革

学習指導要領の内容：B（3）

第3節の目標
<ul style="list-style-type: none"> ○産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりや幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。 ○産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ○第3節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。 <p>【第3節の問い】 江戸時代の社会と政治は、どのように移り変わっていったのでしょうか。</p>

知識・技能★

・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりや幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。

思考・判断・表現★

・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

・第3節の問いを追究する際に、第4編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
53	1 さまざまな産業の発達 (教科書 P. 134-135) ・農業の発達 ・諸産業の発達 ・特産物の生産	○江戸時代において、諸産業が発達して、社会が変化していったことを理解する。 ○江戸時代の産業の発達にともなう社会の変化について、新たな技術の開発などに着目して考え、表現する。	知識・技能 江戸時代に諸産業が発達して生産力が高まり、商品作物や特産品が各地に生まれたことを理解している。 思考・判断・表現 新たな技術の開発などが社会にあたえた影響に着目して、江戸時代の産業の発達に伴う社会の変化を考え、表現している。
54	2 交通の発達と三都のにぎわい (教科書 P. 136-137) ・交通網の整備 ・都市の成長	○江戸時代において、交通網が整備され、都市が発展したことや貨幣経済が進展したことを理解する。 ○江戸時代の社会の変化について、交通網の発達と都市の成長との関連に着目して考え、表現する。	知識・技能 交通網が整備され、三都をはじめとする都市が発展したことや貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増したことを理解している。 思考・判断・表現 江戸時代に交通や都市が発達した理由を、幕府や藩の政治の仕組み、物資の流通などから考え、表現している。
55	3 江戸時代前期の政治と文化 (教科書 P. 138-141) ・綱吉と白石の政治 ・元禄文化 ・学問と教育 ・庶民のくらし	○江戸時代前期の政治の転換、元禄文化や学問の特色を理解する。 ○元禄文化が発達した要因、また、学問の広まりが見られた背景について、当時の社会の様子に着目して考え、表現する。	知識・技能 徳川綱吉の政治が武断政治から文治政治へと転換したことや、上方を中心に町人が担い手となり元禄文化が発展したこと、武士や庶民にも学問が広がったことを理解している。 思考・判断・表現 元禄文化が発達したことや学問の広まりがみられた背景について社会の安定や発達などから考え、表現している。
56	4 幕府政治の改革 (教科書 P. 142-143) ・吉宗の政治 ・田沼と定信の政治	○江戸幕府による政治改革について整理し、それぞれの改革の内容や結果を理解する。	知識・技能 江戸幕府による諸改革の内容(ねらいや手段)や結果について、諸資料を基に整理してまとめ、理解して

		○幕府の財政難の原因と改革で行われた政策との対応に着目して、政治が行き詰まったことを考え、表現する。	いる。 思考・判断・表現 幕府の財政難の原因と改革で行われた政策が対応していないことをふまえ、政治改革が十分な成果を上げられず、政治が行き詰まったことを考え、表現している。
57	5 農村の変化と民衆の動き (教科書 P. 144-145) ・変わる農村 ・百姓一揆と打ちこわし	○商品作物の栽培の広がりや、貨幣経済の浸透による社会の変化について理解する。 ○百姓一揆や打ちこわしが増加した背景について、農村の変化や当時の社会状況と関連づけて考え、表現する。	知識・技能 商品作物の栽培の広がりや貨幣経済の浸透により、農村で階層分化が進んだことを理解している。 思考・判断・表現 貨幣経済の浸透や農村での階層分化を背景に、天候不順なども相まって、百姓一揆や打ちこわしの件数が増大したことについて考え、表現している。
58	6 江戸時代後期の学問と文化 (教科書 P. 146-149) ・国学と蘭学 ・化政文化 ・教育の広がり	○18世紀に入り発達した新しい学問と、江戸を中心に栄えた化政文化のそれぞれの特色について理解する。 ○新しい学問が発達した背景と、化政文化が栄えた要因について考え、表現する。	知識・技能 国学や蘭学が発達し、新しい時代を切り開く動きにつながったことや江戸を中心に民衆文化(化政文化)が栄えたことを理解している。 思考・判断・表現 社会の変化や幕府の政策の変容などに着目し、新しい学問が発達したり、化政文化が栄えたりした背景について考え、表現している。
59	【チャレンジ歴史】 地図から、江戸時代の日本人が知っていた世界の姿を読み取ろう (教科書 P. 150-151)	○当時の人々の世界の姿に対する認識の変化を資料の変遷を基に理解する。 ○世界地図の変化に着目するとともに、より正確な地図が作成された理由を時代の背景をから考え、表現する。	知識・技能 世界地図のちがいを読み取り、それぞれ地図が作られた時代のように理解する。 思考・判断・表現 正確な世界地図が必要とされた理由を、世界と日本のようすを関連づけて表現している。
60	【まとめとふり返し】 (教科書 P. 152-153) 編の学習を確認し、「近世」の特色をつかもう!	○編の問いについて考察したことをふまえて、当時の日本で起きた変化に着目し、近世の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○単元全体の自己の学習をふり返し、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近代(前半)の学習へつながる課題意識を醸成する。	思考・判断・表現 編の問いを考察する活動と中世と近世にちがいが生まれた理由を考察する活動を通じて、日本の変化に着目し、近世の特色を多面的・多角的に考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 第4編における自己の学習の経過をふり返し、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近代(前半)の学習へつながる課題意識を醸成することができている。

第5編第1章の目標

- 近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 近代（前半）の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 近代（前半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第5編第1章の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。

【第5編第1章の問い】

大日本帝国の成立に象徴される近代化の特色は、どのような点にあらわれているでしょうか。

(★) 第5編第1章の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代（前半）の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代（前半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近代（前半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・近代（前半）の日本と世界の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、近代（前半）の時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
-----------------------	---

61	<p>【学習のはじめに】 江戸と東京を比べよう（教科書P. 154-155） 年表と地図を読み取ろう（教科書P. 156-157）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○絵画資料の読み取りを通して、近代（前半）のイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取る。 ○近代（前半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 	<p>知識・技能</p> <p>絵画資料の読み取りを通して、近代（前半）のイメージをつかみ、年表と地図から日本と世界のできごとやつながりのようすを読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>小学校での学習などを基に、章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>
----	--	--	--

第1節の目標

- 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。
- 欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第1節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第1節の問い】

議会制民主主義や資本主義、工業化は、どのような近代社会をつくったのでしょうか。

(★) 第1節の評価規準に用いる評価

知識・技能★

・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。

思考・判断・表現★

・欧米諸国における工業化の進展と政治や社会の変化と影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

・第1節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
62	1 産業革命 (教科書 P. 158-159) ・プランテーションと奴隷制 ・イギリスの産業革命 ・産業革命の影響	○イギリスの産業革命により資本主義社会が広まったことと、労働運動・社会主義の考えが生まれたことを理解する。 ○イギリスが産業革命にいたるまでの過程と産業革命が社会に与えた影響について考え、表現する。	知識・技能 イギリスの産業革命により、資本家と労働者からなる資本主義社会が広まったこと、生活と権利を守るために労働運動・社会主義の考えが生まれたことを資料や本文から理解している。 思考・判断・表現 イギリスが産業革命にいたるまでの起こりや過程、産業革命による経済的、社会的影響などについて考え、表現している。
63	2 王政から議会制へ (教科書 P.160-161) ・イギリスやフランスの王政 ・イギリスの議会政治 ・啓蒙思想	○イギリスで議会制が確立した過程やその内容、フランスの啓蒙思想について、王政に対する民衆の動きをふまえたうえで、理解する。 ○議会制の確立について国王と議会の関係の変化や、啓蒙思想による議会政治の発展に着目して考え、表現する。	知識・技能 イギリスで議会制が確立した過程やその内容、フランスの啓蒙思想について、王政に対する民衆の動きをふまえたうえで、理解している。 思考・判断・表現 議会制の確立について国王と議会の関係の変化や、啓蒙思想による議会政治の発展に着目して考え、表現している。
64	3 アメリカの独立とフランス革命 (教科書 P. 162-163) ・アメリカの独立 ・フランス革命	○市民革命では、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きがみられたことを資料や本文から理解する。 ○市民革命の影響について、自由や平等を求めたアメリカ独立とフランス革命の類似点と相違点に着目して考え、表現する。	知識・技能 市民革命では、政治的な対立と社会の混乱、そこで生じた犠牲などを経て近代民主政治への動きがみられたことを資料や本文から理解している。 思考・判断・表現 市民革命の影響について、自由や平等を求めたアメリカ独立とフランス革命の類似点と相違点に着目して考え、表現している。

65	<p>4 新興勢力の台頭 (教科書 P. 164-165)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北戦争とアメリカ合衆国の発展 ・ロシアの拡大 ・ドイツ帝国の誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業が発展して国際競争力をつけたアメリカは、南北戦争により奴隷制が廃止され、西部開拓を経て、さらに発展したことを理解する。 ○欧米諸国が国家の勢力を強め近代化した過程を、改革の内容や国家の統一に着目して考え、表現する。 	<p>知識・技能 産業が発展して国際競争力をつけたアメリカは、南北戦争により奴隷制が廃止され、西部開拓を経て、さらに発展したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 欧米諸国が国家の勢力を強め近代化した過程を、改革の内容や国家の統一に着目して考え、表現している。</p>
66	<p>5 ヨーロッパのアジア侵略(教科書 P. 166-167)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムガル帝国とイギリスの支配 ・清とアヘン戦争 	<ul style="list-style-type: none"> ○三角貿易を手掛かりに、イギリスがインド・中国を支配していく過程をとらえ、人々の抵抗運動のようすを理解する。 ○イギリスによるアジア侵略の過程を安価な原料の輸入先の確保と市場拡大の視点から考え、表現する。 	<p>知識・技能 三角貿易を手がかりに、イギリスがインド・中国を支配していく過程をとらえ、人々の抵抗運動のようすを、資料や本文から理解している。</p> <p>思考・判断・表現 イギリスによるアジア侵略の過程を安価な原料の輸入先の確保と市場拡大の視点から考え、表現している。</p>

第2節 近世から近代へ

学習指導要領の内容：C（1）

第2節の目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ○欧米諸国の接近や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことを理解する。 ○国内外の変化に対する幕府と諸藩の対応のちがいや幕府を批判する勢力の主張の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きを生み出したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。 ○第2節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。 <p>【第2節の問い】 なぜ、約260年間続いた江戸幕府がたおれることになったのでしょうか。</p>
<p>（★評価に用いる評価） 第2節の評価規準</p>	<p>知識・技能★ ・欧米諸国の接近や開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ ・国内外の変化に対する幕府と諸藩の対応のちがいや幕府を批判する勢力の主張の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的及び社会的な影響をふまえ、明治維新の動きが生み出されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・第2節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。</p>

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
67	1 ゆらぐ幕府の支配 (教科書 P. 168-169) ・外国船の接近 ・大塩平八郎の乱と天保の改革 ・雄藩の成長	○資料の読み取りなどを通して、対外関係や国内のようすの変化を理解する。 ○社会の変化に対して、幕府と諸藩がどのような対応をとり、その結果幕末の政治にどのような影響があったのかを考え、表現する。	知識・技能 外国船の接近やききん、一揆への対応、財政難といった課題を幕府や諸藩がかかえていたことを理解している。 思考・判断・表現 従来大きな力をもっていた幕府が国内外の課題の対応に失敗した一方、薩長など西南雄藩は改革に成功し、影響力が高まったことを考え、表現している。
68	2 開国 (教科書 P. 170-171) ・ペリーの来航 ・不平等条約の締結 ・経済の混乱	○資料の読み取りなどを通して、アメリカの要求を受け入れて不平等条約を結んだ幕府の政策転換の経緯やその影響を理解する。 ○開国により国内生産への打撃や国内経済の混乱が生じた経緯や理由を考え、表現する。	知識・技能 日米和親条約・日米修好通商条約の目的や内容のちがいと、国内に与えた影響を理解している。 思考・判断・表現 関税自主権を喪失する中での貿易や金銀比価問題などにより、国内生産が打撃を受けたほか、物価高が生じて民衆の生活が圧迫されるなど国内経済が混乱したことを考え、表現している。
69	3 江戸幕府の滅亡 (教科書 P. 172-173) ・尊王攘夷から倒幕へ ・世直し ・王政復古と戊辰戦争	○開国後の混乱を背景に尊王攘夷運動の高まりや攘夷の失敗、倒幕にいたる薩長の動きを理解する。 ○薩長を中心とする新政府軍によって、江戸幕府が滅亡に追い込まれることとなった要因を考え、表現する。	知識・技能 幕府が尊王攘夷運動を弾圧する一方、薩長は攘夷の困難さに気付き、新たな政治の必要性をいだいて倒幕の動きをとっていったことを理解している。 思考・判断・表現 改革に成功した諸藩を中心とした新政府軍が、対外政策や諸改革の失敗などにより力を失った江戸幕府を滅亡に追い込む動きを考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 新しい世の中をめざした人々 (教科書 P. 174-175)	○国訴や渋染一揆を通して、自由や平等を求めた動きが江戸時代後期にすでに民衆のなかで発生していたことを理解する。 ○鎖国下でも海外に渡り、日本の今後の在り方について検討した人々の取り組みが、幕末の激動や新政府の国家構想に反映されていることを考え、表現する。	知識・技能 江戸時代の身分制のもと、経済的な自由や差別の撤回を求めた人々が存在したことを理解している。 思考・判断・表現 日本が植民地化される危険性を訴えた高杉の日記や、海援隊で議論されていた国家構想などの読み取りを通して、彼らの歴史的業績を考え、表現している。

第3節の目標

- 富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。
- 幕藩体制とのちがいや諸政策の目的、諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第3節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第3節の問い】

明治維新の諸政策によって、社会はどのように変化したのでしょうか。

(★) 第3節の評価規準に用いる評価

知識・技能★

・富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。

思考・判断・表現★

・幕藩体制とのちがいや諸政策の目的、諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

・第3節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
70	1 明治維新 (教科書 P. 176-177) ・新政府の成立 ・廃藩置県 ・身分制の廃止と四民平等	○明治新政府が行った廃藩置県や四民平等などの政策がそれぞれどのようなものを理解する。 ○幕藩体制と比較し、明治新政府がめざした新しい統治のしくみやその意図について考え、表現する。	知識・技能 廃藩置県や四民平等など、新政府の政策の内容や目的を理解している。 思考・判断・表現 地方分権的な幕藩体制と比較し、明治新政府の諸政策が天皇を中心とした中央集権国家の建設や、身分制の廃止による近代社会をめざしたことを考え、表現している。
71	2 殖産興業と富国強兵 (教科書 P. 178-179) ・殖産興業 ・国民皆兵と徴兵令 ・地租改正	○明治新政府が行った殖産興業や徴兵令、地租改正などの諸政策がそれぞれどのようなものを理解する。 ○新政府が近代国家建設を急いだ理由について、殖産興業や徴兵令、地租改正などの諸政策の内容をふまえて考え、表現する。	知識・技能 国内経済の活性化により国力をつけるための殖産興業、近代的な軍隊をつくるための徴兵令、政府の財政を安定させるための地租改正など、新政府の諸政策の内容や目的を理解している。 思考・判断・表現 新政府の諸政策の内容から、欧米諸国に対抗する近代国家を建設し、植民地化を免れようとしたことを考え、表現している。

72	<p>3 文明開化の展開 (教科書 P. 180-183)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民皆学と学制 ・国民をつくる ・さまざまな文明開化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学制や文明開化などにより、当時の人々の考え方や生活が大きく変化したことを理解する。 ○国民皆学に支えられた近代思想の広がり、「国民」の創出や西洋風の生活様式の広がりにつながったことについて考え、表現する。 	<p>知識・技能 明治政府が取り入れた教育制度や近代思想、西洋風の生活様式などにより、人々の考え方や生活が大きく変化したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 国民皆学に支えられながら欧米の近代思想が広まったことが、近代国家に不可欠な「国民」の創出につながるとともに、文明開化と呼ばれる西洋風の生活様式の広がりにつながったことを考え、表現している。</p>
73	<p>4 近代的な国際関係の形成 (教科書 P. 184-185)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩倉使節団の動き ・清や朝鮮との外交 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府は、岩倉使節団を欧米に派遣して政治や法制度などを学び、近代国家の建設をめざしたことを理解する。 ○明治政府の外交政策が、対欧米諸国と対アジア諸国とで異なっていることについて、その理由を考え、表現する。 	<p>知識・技能 不平等条約改正に向けて使節団を派遣し、欧米諸国の制度に学んで近代国家建設をめざしていたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 「万国公法」体制に基づき不平等条約を受け入れさせられた日本が、同じ原理に基づいてアジア諸国と条約を結んだことについて考え、表現している。</p>
74	<p>5 領土の画定と隣接地域 (教科書 P. 186-187)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領土の画定をめざして ・琉球王国から沖縄県へ ・北海道とアイヌの人々 	<ul style="list-style-type: none"> ○樺太・千島交換条約や沖縄県の設置、北海道の開拓事業を通じて、日本が隣接地域を統治下に組み込んでいったことを理解する。 ○明治政府にとって、領土の画定や沖縄・北海道を日本の統治下に組み込むことにどのような意味があったのかについて考え、表現する。 	<p>知識・技能 資料読解などを通して、樺太・千島交換条約や沖縄県の設置、北海道の開拓事業などについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現 明治政府は従来の東アジアの冊封体制を「万国公法」体制へ移行するための領土画定を実施し、近代的な国際秩序への参加を求めたことを考え、表現している。</p>
※	<p>【でかけよう！地域調べ】 手宮線跡地から町の発展を探る (教科書 P. 188-189)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○調査したテーマについて、情報の収集・選択や調査課題に対する多面的・多角的な考察を行い、考察したことを効果的な表現方法でまとめている。 ○身近な地域の歴史に関心を持ち、調査の仕方や考察したことのまとめ方を工夫して、主体的に追究しようとする態度を養う。 	<p>思考・判断・表現 調査したテーマについて、情報の収集・選択や調査課題に対する多面的・多角的な考察を行い、考察したことをタブレット端末を活用して効果的な表現方法でまとめている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 身近な地域の歴史に関心を持ち、調査の仕方や考察のまとめ方を工夫して、主体的に追究しようとしている。</p>

第4節の目標	
<p>○自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。</p> <p>○国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第4節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第4節の問い】 日本における立憲制はどのように始まり、展開されたのでしょうか。</p>	
★ 第4節の評価規準 （★評定に用いる評価）	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。
	<p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 国民と政府の国会開設やめざした憲法の在り方のちがいなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 第4節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
75	1 士族の反乱と自由民権運動（教科書 P. 190-191） ・相次ぐ士族の反乱 ・自由民権運動の始まり ・高まる国会開設の要求	<p>○新政府の政策に対して不満を高めた士族が反乱を起こしたが、その後、言論による政治改革を求める動きが高まったことを理解する。</p> <p>○政府を離れた西郷隆盛と板垣退助の動きに着目して、新政府への不満が国会開設の要求になっていった理由について考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 新政府に対して士族が不満を高めた要因と、それらが反乱を起こすまでにいたる過程について理解している。</p> <p>思考・判断・表現 新政府への不満が国会開設の要求になっていった経緯について、政府を離れた西郷隆盛と板垣退助の動きに着目して考え、表現している。</p>
76	2 国会開設の公約と憲法制定に向けて（教科書 P. 192-193） ・国会開設の公約 ・政党の結成と運動の激化 ・内閣制度の成立	<p>○国会開設に向けた政府と民権派それぞれの動きをとらえるとともに、政府がヨーロッパに学んで内閣制度を成立させたことを理解する。</p> <p>○政府と民権派との意見の対立を軸に、近代国家樹立をめざして政府がどのような国づくりをめざしたのかについて考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 国会開設までの過程における政府と、それに対抗する自由民権運動の動きについて理解している。</p> <p>思考・判断・表現 政府がどのような国づくりをめざしたのかを、憲法などの内容に関する民権派との意見の対立を軸に考え、表現している。</p>

77	<p>3 大日本帝国憲法の制定と帝国議会（教科書 P. 194-195）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大日本帝国憲法の発布と教育勅語 ・帝国議会の開設と総選挙 ・初期議会期の藩閥政府と民党 	<p>○大日本帝国憲法の内容や、日本が憲法と議会をそなえたアジア初の立憲制国家になったことを理解する。</p> <p>○帝国議会で民党の議員が過半数を占めるも、藩閥政府であるがゆえに政府の方針が国民の願いとかけはなれていたことについて考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 ヨーロッパの憲法に学んで制定された大日本帝国憲法と、自由民権運動がめざす憲法を比較して、大日本帝国憲法の内容を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 政府のねらいと国民の願いの差に着目し、政府と議会が対立した理由を考え、表現している。</p>
----	---	---	--

第5節 日清・日露の戦争と東アジアの動き

学習指導要領の内容：C（1）

第5節の目標	
	<p>○日清・日露戦争、条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化や日本の国際的な地位が向上したことを理解する。</p> <p>○日清・日露戦争が起こった背景や結果、国内外の反応、条約改正が達成された過程などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第5節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第5節の問い】 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。</p>
<p>★第5節の評価規準 （★評価に用いる評価）</p>	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、戦争にいたるまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化が行われたことを理解している。 ・条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、長年の外交上の課題として取り組まれた欧米諸国との対等な外交関係の樹立が達成されたことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日清・日露戦争が起こった背景や結果、国内外の反応、条約改正が達成された過程などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の国際的地位が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
78	<p>1 列強の動向とアジア（教科書 P. 196-197）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアとアフリカの植民地 ・条約改正の実現 ・朝鮮をめぐる東アジア情勢 	<p>○帝国主義のもと、列強がアジア・アフリカへと進出した理由と日本の動きについて理解する。</p> <p>○条約改正の実現について、日本の近代制度を整えようとする努力や日本近隣諸国との関係性から考え、表現する。</p>	<p>知識・技能 帝国主義のもと、欧米諸国が製品の市場、原料や労働力を求めてアジア・アフリカに進出したことと、日本の帝国主義に対する動きを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 近代国家として帝国主義諸国とも対等な地位を得るため、日本が条約</p>

			改正を進めたことを考え、表現している。
79	2 朝鮮をめぐる対立 (教科書 P. 198-199) ・日清戦争 ・下関条約と三国干渉 ・政党勢力の成長と立憲政友会の成立	○資料の読み取りなどを通して、日清戦争前後の東アジアの情勢と日本の動きを理解する。 ○日清戦争後の国内外の動きを資料から読み取り、対ロシア戦に向けた姿勢がどのようにつくられたかを考え、表現する。	知識・技能 日清戦争に勝利した日本の動きを東アジアに進出していた帝国主義諸国が警戒し、三国干渉してきたことを理解している。 思考・判断・表現 日清戦争後の国内外の動きについて、三国干渉やそれに対する国内世論、後の対ロシア戦に向けて政治における政党の力が強まったことを考え、表現している。
80	3 朝鮮・満州をめぐる日本とロシアの対立 (教科書 P. 200-201) ・満州をめぐる日本とロシアの対立 ・日露戦争 ・ポーツマス条約と満州経営	○資料の読み取りなどを通して、日露戦争開戦時の東アジアの情勢と戦後の日本の動きについて理解する。 ○日露戦争の結果を、国外と国内の両方の立場から考え、表現する。	知識・技能 日露戦争の開戦理由について、日本の朝鮮での優越権やロシアの南下政策とそれを阻もうとするイギリスの利害関係をふまえて、理解している。 思考・判断・表現 日露戦争の結果、韓国に対する優越権や大陸の利益を得ながらも、賠償金がなかったことから国民生活が苦しくなったようすを考え、表現している。
81	4 日本の朝鮮支配 (教科書 P. 202-203) ・韓国併合 ・中華民国の成立	○日露戦争後の朝鮮半島や中国について、日本や列強各国の関係をふまえて理解する。 ○日露戦争後の朝鮮半島と中国の政治について、共通点や相違点を考え、表現する。	知識・技能 日露戦争後、韓国は韓国併合で日本の植民地支配が進む一方、中国では近代化を目指す辛亥革命により、中華民国が建国されたことを理解している。 思考・判断・表現 日露戦争後の韓国と中国の変化について、韓国では日本の植民地化が進んだこと、中国では辛亥革命により中華民国が誕生したことを考え、表現している。

第6節 近代の日本の社会と文化

学習指導要領の内容：C（1）

第6節の目標

- 日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。
- 産業の発展が国民の生活や文化に与えた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第6節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第6節の問い】

産業の発展によって、社会や文化はどのように変わったのでしょうか。

(★) 第6節の評価規準 (★) 評定に用いる評価	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業の発展が国民の生活や文化にあたえた影響に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6節の問いを追究する際に、第5編第1章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。
------------------------------	---

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
82	1 日本の産業革命 (教科書 P. 204-205) ・工業化の進展 ・労働者と農民	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の急速な近代化の背景に、国内の産業革命や資本主義経済の導入があり、一方で新たな社会問題が並存していたことを理解する。 ○近代化が進んだことで国民の生活環境が苦しくなった側面について考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>日本の産業革命により、近代化が進められる一方で、公害や貧富の差の拡大など、新たな社会問題が生じたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>日本の産業革命により、近代化が進んだことで、長時間労働や公害、貧富の差の拡大など、新たな問題が生じたことを資本主義の発展と結びつけて考え、表現している。</p>
83	2 社会運動の発展と近代文化の形成 (教科書 P. 206-207) ・社会を変える ・新時代の文学と芸術 ・教育の普及	<ul style="list-style-type: none"> ○明治期の近代文化の誕生について、欧米文化や日本の伝統の融合という特徴に気づき、その背景に教育の普及があったことを理解する。 ○社会運動の背景に、日本の産業革命や資本主義の発展が関係していることを考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>文明開化により、欧米文化を日本の伝統と融合させながら日本の近代文化が誕生したことをとらえ、その背景に教育の普及があったことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>社会運動の登場や近代文化の発展を、日本の産業革命や資本主義の発展が影響していることを考え、表現している。</p>
84	【チャレンジ歴史】 経済発展か、環境保全か、足尾鉍毒事件を通して考えよう (教科書 P. 210-211)	<ul style="list-style-type: none"> ○足尾銅山鉍毒事件の原因と結果を理解する。 ○足尾銅山鉍毒事件を例に、銅山の操業停止を求めた田中正造と経済発展優先の政府の対応について調べ、自分の意見をもち、発表する。 	<p>知識・技能</p> <p>足尾銅山鉍毒事件の原因と結果について理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>田中正造の主張と、それに対する政府の対応をふまえて、この問題について自分の意見を述べている。</p>
85	【まとめとふり返り】 (教科書 P. 212-213) 章の学習を確認し、「近代(前半)」の特色をつかもう！	<ul style="list-style-type: none"> ○章の問いについて考察したことをふまえて、近代国家をめざす明治政府の諸政策に着目し、近代(前半)の特色を多面的・多 	<p>思考・判断・表現</p> <p>章の問いを考察する活動と近代日本への変革を考察する活動を通じて、明治政府の諸政策に着目し、近代(前半)の特色を多面的・多角的に考え、</p>

		<p>角的に考え、表現する。</p> <p>○単元全体の自己の学習をふり返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近代（後半）の学習へつながる課題意識を醸成する。</p>	<p>表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>第5編第1編における自己の学習の経過をふり返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く近代（後半）の学習へつながる課題意識を醸成することができている。</p>
--	--	---	--

第5編第2章の目標

- 近代（後半）までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 近代（後半）での日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 近代（後半）の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第5編第2章の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。

【第5編第2章の問い】

日本はなぜ二度の世界大戦に参戦し、その結果どうなったのでしょうか。

第5編第2章の評価規準
(★評定に用いる評価)

知識・技能★

- ・近代（後半）までの日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。

思考・判断・表現★

- ・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近代（後半）の社会の変化のようすを多面的・多角的に考察し、表現している。
- ・近代（後半）の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度★

- ・資料から時代の移り変わりを読み取る活動を通して、近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとしている。
- ・近代（後半）の日本と世界の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、近代（後半）の時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
86	<p>【学習のはじめに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代の雑誌の表紙を比べよう（教科書 P. 214-215） ・年表と地図を読み取ろう（教科書 P. 216-217） 	<ul style="list-style-type: none"> ○当時の雑誌の表紙の読み取りを通して近代（後半）のイメージをつかみ、年表と地図から二度の世界大戦を経験した日本の動きのあらましを、世界の国々との関係をふまえて読み取る。 ○近代（後半）の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 	<p>知識・技能</p> <p>当時の雑誌の表紙から近代（後半）をイメージし、年表と地図から、二度の大戦に発展した日本や世界の動きや世界の国々の対立関係など、当時の世界情勢について読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>小学校での学習などを基に、章の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>

第1節の目標

- 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢について理解する。
- 経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるな

どして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。

○第1節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第1節の問い】

なぜ第一次世界大戦が起こり、日本と世界にはどのような影響があったのでしょうか。

(★評定に用いる評価)

知識・技能★

・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて理解している。

思考・判断・表現★

・経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦前後の国際情勢や大戦後に国際平和への努力がなされたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。

主体的に学習に取り組む態度

・第1節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
87	1 第一次世界大戦 (教科書 P. 218-219) ・ヨーロッパ諸国の対立 ・第一次世界大戦の始まり ・新兵器と総力戦	○第一次世界大戦が起こった背景や原因とその特徴を理解する。 ○第一次世界大戦はなぜ国力のすべてを戦争につぎこむ総力戦となったのかを考え、表現する。	知識・技能 第一次世界大戦前の国際関係を踏まえて、その原因や特徴について理解している。 思考・判断・表現 第一次世界大戦の原因に着目し、新兵器の登場や植民地を巻き込んだ総力戦という第一次世界大戦の特徴について考え、説明している。
88	2 戦争の拡大とロシア革命 (教科書 P. 220-221) ・日本の参戦と二十一か条の要求 ・ロシア革命 ・アメリカの参戦 ・シベリア出兵とソ連の成立	○第一次世界大戦に日本が参戦したのちの各国の動きを理解する。 ○日本が第一次世界大戦に参戦した理由を、各国の動きや日本の動きに着目し考え、表現する。	知識・技能 第一次世界大戦に日本が参戦したのちの各国の動きを整理し、理解している。 思考・判断・表現 日本が第一次世界大戦に参戦した理由を、各国の動きや日本の動きに着目して考え、表現している。
89	3 ベルサイユ条約と国際連盟 (教科書 P. 222-223) ・第一次世界大戦の終結 ・国際連盟の成立 ・大戦後の欧米諸国	○第一次世界大戦後に国際平和のための努力がなされたこと理解する。 ○第一次世界大戦後の欧米諸国では、総力戦で多くの犠牲をともなった分、民主主義的な風潮が高まったことについて考え、表現する。	知識・技能 平和を願う機運が世界中で高まるなかで国際連盟が発足し、軍縮条約が締結されたことを理解している。 思考・判断・表現 第一次世界大戦の原因に着目し、ベルサイユ体制では平和と協調が主張されたが、戦勝国に有利な結果となったことについて考え、説明している。

90	<p>4 アジアの民族運動と国際協調 (教科書 P. 224-225)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮の三・一独立運動 ・中国の五・四運動 ・インドの民族運動 ・ワシントン会議と日本 	<ul style="list-style-type: none"> ○アジアの民族運動や独立運動の流れを第一次世界大戦と関連づけて理解する。 ○アジアの民族運動やワシントン会議によって日本はどのような影響を受けたのかを考え、表現する。 	<p>知識・技能 アジア諸国で民族の自立や独立がさげられ、ワシントン会議でも日本の権益が制限されたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 アジア諸国やワシントン会議での日本との関係に着目し、日本の権益が減少したことについて考え、表現している。</p>
----	--	--	--

第2節 大正デモクラシーの時代

学習指導要領の内容：C（1）

第2節の目標	
	<ul style="list-style-type: none"> ○国際協調の動きや日本の国民の政治的自覚の高まり、文化の大衆化などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことを理解する。 ○政党政治の展開や普通選挙制の実現、社会運動の広まり、都市化の進展と大衆文化の内容などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことから多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第2節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。 <p>【第2節の問い】 第一次世界大戦後、なぜ社会運動が広がり、人々の生活はどのように変化したのでしょうか。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">★評価に用いる評価規準 第2節の評価規準</p>	<p>知識・技能★ ・国際協調の動きや日本の国民の政治的自覚の高まり、文化の大衆化などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ ・政党政治の展開や普通選挙制の実現、社会運動の広まり、都市化の進展と大衆文化の内容などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第一次世界大戦がその後の日本に大きな影響を及ぼしたことから多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・第2節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
91	<p>1 大正デモクラシーと政党内閣の成立 (教科書 P. 226-227)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・護憲運動 ・日本経済の飛躍 ・米騒動と政党内閣の成立 	<ul style="list-style-type: none"> ○藩閥政治や、好景気による物価高への反発などを背景に、国内で護憲運動や米騒動などの動きが広まったことを理解する。 ○本格的な政党政治の実現までの過程に着目して、大正デモクラシーの動きが広がった理由を考え、表現する。 	<p>知識・技能 日露戦争から第一次世界大戦中の好景気のなかで、大正デモクラシーの動きが出てきたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 本格的な政党政治の実現までの過程に着目して、大正デモクラシーの動きが広がった理由を考え、表現している。</p>

92	<p>2 社会運動の広がり (教科書 P. 228-229)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち上がる労働者・農民 ・ 差別からの解放を求めて ・ 男子普通選挙の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ○大正デモクラシーの流れの中で広がりをみせた様々な社会運動を、それらの背景をふまえて理解する。 ○様々な社会運動が果たした役割に着目して、社会運動が社会に与えた影響と限界について考え、表現する。 	<p>知識・技能 生活の向上や差別からの解放を求めるそれぞれの運動がめざしていたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 様々な社会運動が果たした役割に着目して、社会運動が社会に与えた影響と限界について考え、表現している。</p>
93	<p>3 都市化の進展と大衆文化 (教科書 P. 230-233)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市の生活 ・ 文化の大衆化 	<ul style="list-style-type: none"> ○都市化や文化の大衆化の具体例をふまえて、大正時代の文化の特色を理解する。 ○資本主義の発達や社会運動の広がり、メディアの普及や教育の充実等に着目して、大正時代の文化が生まれた理由を考え、表現する。 	<p>知識・技能 都市化や文化の大衆化についての具体例をふまえて、大正時代の文化の特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 資本主義の発達や社会運動の広がり、メディアの普及や教育の充実等に着目して、大正時代の文化が生まれた理由を考え、表現している。</p>
-	<p>【歴史を掘り下げる】 水平社の創立とさまざまな人権運動 (教科書 P. 234-235)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全国水平社の創立理念が、差別を受けていた人々の自主的な人権回復運動の展開に影響を与えたことを理解する。 ○水平社綱領・宣言が出された背景や、水平社と他の人権運動とのつながりに着目して、水平社創立の意義を考え、表現する。 	<p>知識・技能 全国水平社の創立理念が、差別を受けていた人々の自主的な人権回復運動の展開に影響を与えたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 水平社綱領・宣言が出された背景や、水平社と他の人権運動とのつながりに着目して、水平社創立が現代社会においてどのような意義をもつのかを考え、表現している。</p>

第3節 世界恐慌と日本

学習指導要領の内容：C (1)

第3節の目標

- 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解する。
- 経済の変化の政治への影響、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第3節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第3節の問い】

日本は、なぜ大陸へ進出していったのでしょうか。

(★) 第3節の評価規準に用いる評価	知識・技能★ ・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。
	思考・判断・表現★ ・経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、軍部の台頭から戦争までの経過について多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度 ・第3節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
94	1 世界恐慌と各国の対応 (教科書 P. 236-237) ・世界恐慌の衝撃 ・ファシズムの台頭 ・ニューディール政策とブロック経済政策	○資源・植民地をもてる国ともたざる国、社会主義国、それぞれの世界恐慌への対応を理解する。 ○資源・植民地をもてる国ともたざる国、社会主義国、それぞれの世界恐慌への対応の理由を考え、表現する。	知識・技能 資源・植民地をもてる国ともたざる国、社会主義国、それぞれの世界恐慌への対応を理解している。 思考・判断・表現 資源・植民地をもてる国ともたざる国、社会主義国のちがいに着目して、それぞれの国々がどうしてそのような世界恐慌への対応をしたのか考え、表現している。
95	2 日本の恐慌と東アジア情勢 (教科書 P. 238-239) ・日本の恐慌 ・統一を進める中国と日本の対応 ・政党政治の危機	○世界恐慌の影響による経済の混乱を収めるために、日本では軍部による大陸進出を進め、政党政治が行き詰まっていたことを理解する。 ○世界恐慌の影響に対する民衆の動きや政府の対応と、軍部の台頭を関連させて、政党政治が行き詰まっていた理由を考え、表現する。	知識・技能 世界恐慌の影響を受けて経済の混乱が起こる中、軍部の力が強まり、日本の政党政治が行き詰まりをみせたことを理解している。 思考・判断・表現 日本の恐慌への政府の対応と、中国へ進出しようとする軍部の台頭とを関連させて、政党政治が行き詰まった理由を考え、表現している。
96	3 日本の進路を変えた満州事変 (教科書 P. 240-241) ・満州事変 ・満州国の建国と日本の国際的孤立 ・強まる軍部の力 ・経済の回復と重化学工業化	○満州事変後に軍部の発言力が強まり、国内政治は政党政治・軍縮路線から軍拡路線へと進路を変えたことを理解する。 ○日本国内の社会や政治の移り変わりをとらえ、満州への侵略が行われた理由と、満州事変後の日本の政治の変化を考え、表現する。	知識・技能 満州事変から二・二六事件までのできごとを、時系列で整理し理解している。 思考・判断・表現 満州事件をきっかけに、軍国主義が台頭することで日本が国際的に孤立し、国内では民主主義が抑圧されるようになったにもかかわらず軍の行動が支持されたことについて考え、表現している。

97	<p>4 日中全面戦争と戦時体制 (教科書 P. 242-243)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国との全面戦争 ・強まる戦時体制 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では軍国主義の体制が推進されたことを理解する。 ○日本軍、中国の国民政府や民衆、他国の動きをとらえ、日本と中国の軍事的衝突が長期化した理由を考え、表現する。 	<p>知識・技能 日中戦争により、植民地では皇民化政策が推進され、国内では国家総動員法などに基づいて軍国主義の体制が推進されたことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現 抗日民族統一戦線の成立や欧米諸国の支援によって抵抗が激化し、戦時体制が強化されたことで戦争が長期化したことについて考え、表現している。</p>
----	---	--	---

第4節 第二次世界大戦と日本

学習指導要領の内容：C（1）

第4節の目標

- 第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。
 - 第二次世界大戦期の世界と日本の動きなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦終結までのようすについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
 - 第4節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。
- 【第4節の問い】**
第二次世界大戦は、日本と世界にどのような影響をあたえたのでしょうか。

<p>★第4節の評価規準 (★評価に用いる評価)</p>	<p>知識・技能★ ・第二次世界大戦の始まりから終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ ・第二次世界大戦時の世界の動きと日本との関連に着目して、事象を相互に関連づけるなどして、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたこと、そのため国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・第4節の問いを追究する際に、第5編第2章の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。</p>
--	--

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
98	<p>1 第二次世界大戦の始まり (教科書 P. 244-245)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再び起きた世界大戦 ・ドイツの占領政策 ・枢軸国と連合国 	<ul style="list-style-type: none"> ○第二次世界大戦の始まりと経過を理解する。 ○枢軸国、連合国の方針のちがいに着目して、日本が枢軸国側に参加した理由について考え、表現する。 	<p>知識・技能 当時の国際社会の対立をファシズム・反ファシズムの立場からとらえ、第二次世界大戦の始まりと経過を理解している。</p> <p>思考・判断・表現 なぜ日本が枢軸国側に参加したのかを、連合国・枢軸国それぞれの立場をふまえて考え、表現している。</p>

99	2 アジア・太平洋での戦争 (教科書 P. 246-247) ・日本の南進 ・日米交渉の決裂 ・太平洋戦争の始まり	○当時の日本の状況をふまえて、日本が東南アジア諸国へ侵攻した理由を理解する。 ○日本政府や日本軍それぞれの動きに着目して、アメリカとの戦争に至った経緯や理由を考え、表現する。	知識・技能 当時の日本資源の分布などを読み取り、日本が東南アジア諸国へ侵攻した経緯や理由を理解している。 思考・判断・表現 日本政府の交渉と日本軍の侵攻の動きに着目して、なぜアメリカとの戦争を始めたのかを考え、表現している。
100	3 戦時下の国民の生活 (教科書 P. 248-249) ・苦しくなった国民生活 ・本土空襲 ・戦場となった沖縄	○日本の戦局の悪化に伴い、国民がどのように戦争に組み込まれたのかを理解する。 ○様々な資料から、戦争が国内だけでなく、占領地や植民地の人々の生活にも大きな影響を及ぼしたことを考え、表現する。	知識・技能 日本の戦局の悪化に伴い、物資の不足と兵力・労働力不足を補うために国民が動員されたことを理解している。 思考・判断・表現 戦時下の生活の実態や変化を国内や占領地、植民地などに着目して多面的・多角的に考え、表現している。
101	4 第二次世界大戦の終結 (教科書 P. 250-251) ・イタリアとドイツの降伏 ・原子爆弾の投下 ・日本の降伏	○資料から第二次世界大戦終結までの過程を読み取り、日本の降伏までの流れを理解する。 ○人類全体へ大きな惨禍をもたらした戦争という過ちを二度と起こさないためにどのようなことが大切かを考え、表現する。	知識・技能 各種資料を読み取り、関連づけながらまとめ、イタリア・ドイツの降伏からポツダム宣言受諾までの過程を理解している。 思考・判断・表現 第二次世界大戦が人類に及ぼした惨禍を学び、同じ過ちを防ぐために今後の国際協調について考え、表現している。
102	【チャレンジ歴史】 戦時体制の言論統制とその影響を考えよう (教科書 P. 252-253)	○諸資料から具体的な損害や言論統制との関連を読み取る。 ○大本営発表と実際の被害との比較や、戦争体験者の言葉などから、言論統制の危うさに着目して考え、表現する。	知識・技能 新聞記事や年表から具体的な被害や言論統制との関連を読み取っている。 思考・判断・表現 戦時において言論統制をされると、正しい情報が得られないようになり、正しい判断ができなくなることをふまえて、その影響について考え、表現している。
※	【でかけよう！地域調べ】 多摩地域の空襲を調べる (教科書 P. 254-255)	○戦争遺跡や図書館、インターネットなどを効果的に活用し、戦争の被害や人々に与えた影響について読み取る。 ○地域の戦争遺跡を調べることを通して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的にとらえて国際平和の意義を考え、表現する。	知識・技能 戦争遺跡や図書館、インターネットなどを活用し、戦争の被害や人々に与えた影響について読み取っている。 思考・判断・表現 戦争遺跡や図書館の資料、インターネットなどから、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的にとらえ、戦争の悲惨さを理解したうえで、国際平和の意義について考え、表現している。

103	<p>【まとめと振り返り】 (教科書 P. 256-257) 章の学習を確認し、「近代(後半)」の特色をつかもう！</p>	<p>○章の問いについて考察したことをふまえて当時の日本で起きた変化に着目し、近代(後半)の特色を多面的・多角的に考え、表現する。</p> <p>○単元全体の自己の学習を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く現代の学習へつながる課題意識を醸成する。</p>	<p>思考・判断・表現 章の問いを考察する活動と1910～40年代に日本で起きたことを整理する活動を通じて、日本の変化に着目し、近代(後半)の特色を多面的・多角的に考え、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 第5編第2章における自己の学習の経過を振り返り、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く現代の学習へつながる課題意識を醸成することができている。</p>
-----	--	--	--

第6編の目標	
<p>○現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>○現代の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>○現代の日本に関わる諸事象について、そこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、第6編の学習をふり返り、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。</p> <p>【第6編の問い】 戦後の日本は、平和で民主的な社会、豊かなくらしをどのように追求してきたのでしょうか。</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl;">（★評定に用いる評価）</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">第6編の評価規準</p>	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の日本の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特色をふまえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけている。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> 敗戦前後の社会の変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度★</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から戦争中や敗戦直後、現在のようすを比較することを通して、現代の日本について見通しをもって学習に取り組もうとしている。 現代の日本と世界の学習をふり返りながら自身の学習状況や達成度を適切に自己評価し、現代の時代の特色は何かを主体的に追究、解決しようとするとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
104	<p>【学習のはじめに】</p> <ul style="list-style-type: none"> 敗戦の前と後の日本を比べよう（教科書 P. 258-259） 年表と地図を読み取ろう（教科書 P. 260-261） 	<p>○写真の読み取りを通して現代のイメージをつかみ、年表と地図から第二次世界大戦の終結から現代にかけての世界の国々の勢力位置や、日本や世界の動きについて読み取る。</p> <p>○現代の日本と世界について見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>	<p>知識・技能</p> <p>写真から現代をイメージし、年表と地図から戦後の世界情勢について、日本や世界の動きや、世界の国々がどの勢力に位置づいていたかを読み取っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>小学校での学習などを基に、編の問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>

第1節の目標	
<p>○冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。</p> <p>○敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたこと</p>	

について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。

○第1節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第1節の問い】

占領から国際社会への復帰までに、日本の政治・経済・社会のしくみはどのように変化したのでしょうか。

(★) 第1節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 <p>思考・判断・表現★</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敗戦前の社会とのちがいや敗戦による社会への様々な影響などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。 <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。
--------------------	---

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
105	<p>1 占領と改革の始まり (教科書 P. 262-263)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 占領政策の開始 ・ 縮小した領土とアジアの解放 ・ 海外にいた人々の苦難 	<ul style="list-style-type: none"> ○ GHQ による占領政策の目的が日本の「非軍事化」と「民主化」であることを理解する。 ○ 五大改革の指令の意味について、軍国主義を支えた(戦争を支えた)戦前の日本の状況に着目して多面的・多角的に考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>五大改革などから、GHQ による占領政策の目的が、日本の「非軍事化」と「民主化」であることを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>五大改革の指令の意味について、軍国主義を支えた(戦争を支えた)戦前の日本の状況に着目して考え、表現している。</p>
106	<p>2 平和で民主的な国家をめざして (教科書 P. 264-265)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の成立 ・ 民主化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本国憲法を大日本帝国憲法と比較しながら読み取り、日本国憲法の特色を理解する。 ○ 日本国憲法と戦後の改革から、日本がどのような国づくりをめざしていたかについて考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>日本国憲法と大日本帝国憲法の比較から、三つの基本原則を明確にした日本国憲法の特色を理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>日本国憲法や戦後改革によってめざされた国づくりについて、敗戦前の社会とのちがいに着目して考え、表現している。</p>
107	<p>3 敗戦直後の社会と文化 (教科書 P. 266-267)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦しい生活 ・ 生活や権利を守る動き ・ 解放感と希望 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戦争と関連づけながら、敗戦後の苦難から復興にかけての人々の行動や文化がどのように変化したのかを理解する。 ○ 日中戦争から太平洋戦争まで続いた戦争が国民生活と日本経済に与えた影響を考え、表現する。 	<p>知識・技能</p> <p>敗戦後の苦難から復興にかけての人々の行動や文化がどのように変化したのかを理解している。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>日中戦争から太平洋戦争まで続いた戦争が国民生活と日本経済に与えた影響を考え、表現している。</p>

108	4 第二次世界大戦後の世界 (教科書 P. 268-269) ・国際連合の成立と脱植民地化 ・冷戦の始まり ・冷戦と東アジア	○東西冷戦による影響を理解する。 ○冷戦が世界に与えた影響について、資本主義陣営と社会主義陣営が対立を深めていく過程に着目して多面的・多角的に考え、その結果を表現する。	知識・技能 東西冷戦による影響を理解している。 思考・判断・表現 冷戦が世界に与えた影響について、東西ドイツの成立や朝鮮戦争が起こった過程に着目して多面的・多角的に考え、その結果を表現している。
109	5 日本の独立と55年体制 (教科書 P. 270-271) ・占領政策の転換 ・講和と安保 ・55年体制と安保闘争	○アメリカによる日本の占領政策の転換を、冷戦と関連づけて理解する。 ○日本の国際社会への復帰について、冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 占領政策の転換について、冷戦が東アジアの情勢に与えた影響と関連づけて理解している。 思考・判断・表現 日本の国際社会への復帰について、深刻化した冷戦と結びつけて多面的・多角的に考え、表現している。

第2節 冷戦下の世界と経済大国化する日本

学習指導要領の内容：C (2)

第2節の目標	
<p>○冷静体制下での高度経済成長などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことを理解する。</p> <p>○高度経済成長期前後の生活のちがいや日本と諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。</p> <p>○第2節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。</p> <p>【第2節の問い】 日本の高度経済成長には、どのような背景と社会の変化があったのでしょうか。</p>	
(★) 第2節の評価規準に用いる評価	<p>知識・技能★ ・冷静体制下での高度経済成長などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことを理解している。</p> <p>思考・判断・表現★ ・高度経済成長期前後の生活のちがいや日本と諸外国との関係などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上したことについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・第2節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
110	1 東西対立と緊張緩和 (教科書 P. 272-273) ・核兵器開発と冷戦下の緊張 ・アジア・アフリカの動き ・緊張緩和と多極化	○資料の読み取りなどを通して、核実験による緊張の高まりと緩和への動きの高まりについて理解する。 ○冷戦による東西対立から緊張緩和と多極化へ向	知識・技能 冷戦下の緊張が高まる中で、核実験の被害や核戦争の危機が起きたが、緊張緩和への動きも高まったことを理解している。 思考・判断・表現 冷戦の緊張状態から緩和と多極化

		かった理由について考え、表現する。	へ向かった理由について、米ソ二大国と、他の国との関係に着目して考え、表現している。
111	2 冷戦下のアジアと日本 (教科書 P. 274-275) ・ベトナム戦争 ・復帰運動の高まりと沖縄返還 ・韓国・中国との国交正常化	○沖縄返還について、冷戦が日本に与えた影響をふまえて理解する。 ○日本とアジア諸国との関係の変化について、アメリカの影響をふまえて考え、表現する。	知識・技能 沖縄では、冷戦下でのアメリカの動きを背景に復帰運動が高まり、日本への返還が実現したことを理解している。 思考・判断・表現 冷戦下で日本が韓国・中国との国交正常化を実現した背景を、アメリカとの関係に着目して考え、表現している。
112	3 高度経済成長 (教科書 P. 276-277) ・経済の高度成長 ・国民生活の変化 ・高度成長のひずみ	○高度経済成長によって国民生活が向上した一方で、様々な社会問題が発生したことを理解する。 ○高度経済成長期による人々のくらしの変化について多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 高度経済成長によって国民生活が向上した一方で、公害問題をはじめとする様々な社会問題が発生したことを理解している。 思考・判断・表現 人々のくらしの変化について、高度経済成長期の前後のちがいに着目して考え、表現している。
113	4 経済大国となった日本 (教科書 P. 278-279) ・経済大国・日本 ・アジアのなかの日本 ・マスメディアの発達と現代の文化	○高度経済成長期以降の人々のくらしにマスメディアが大きな影響を与えたことを理解する。 ○経済発展した日本が世界に与えた影響について、諸外国との関係に着目して考え、表現する。	知識・技能 高度経済成長期以降の人々のくらしについて、マスメディアが国民の意識や生活様式に大きな影響を与えたことを理解している。 思考・判断・表現 経済発展した日本が世界に与えた影響について、諸外国との経済や文化の関係に着目して考え、表現している。

第3節 グローバル化と日本の課題

学習指導要領の内容：C (2)

第3節の目標

- 国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解する。
- グローバル化が日本にあたえた影響、国際社会と現在の私たちの生活との深いつながりなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことについて多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- 第3節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとする態度を養う。

【第3節の問い】

私たちは、どのような課題の解決が求められているのでしょうか。

(★評価に用いる評価) 第3節の評価規準	知識・技能★ ・国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。
	思考・判断・表現★ ・グローバル化が日本に与えた影響、国際社会と現在の私たちの生活との深いつながりなどに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度 ・第3節の問いを追究する際に、第6編の学習全体の見通しをもち、自らの学びの状況を適切に自己認識し、学習の達成度を適切に自己評価しようとしている。

累計 時数	学習内容	学習目標	評価規準
114	1 冷戦の終わりとグローバル化 (教科書 P. 280-281) ・冷戦の終結 ・冷戦後の世界情勢 ・グローバル化と世界の変化	○資料の読み取りなどを通して、冷戦終結とグローバル化によって変化した世界の様子を理解する。 ○米ソの対立がなくなったことによる影響に着目して、冷戦終結後の世界に生じた変化や問題について考え、表現する。	知識・技能 冷戦の終結とその後のグローバル化した世界の様子について、冷戦時代と比較しながらまとめ、理解している。 思考・判断・表現 冷戦後の世界に生じた新たな紛争や国際協調の動きについて、米ソの対立がなくなったことによる影響に着目して考え、表現している。
115	2 グローバル化のなかの日本 (教科書 P. 282-283) ・バブルの崩壊と55年体制の終わり ・安心・安全のゆらぎ	○グローバル化の進展の中で、日本の政治・経済・社会が大きく変化したようすを理解する。 ○グローバル化の進展や自然災害によって生じた平成・令和時代の日本の課題について考え、表現する。	知識・技能 経済や災害に関する資料から読み取ったことを基に、平成・令和時代の日本の政治・経済・社会の様子について、当時の時代背景と関連づけて理解している。 思考・判断・表現 平成・令和時代の日本の問題について、それらの問題が起こった背景に着目して考え、表現している。
116	3 これからの世界と日本の課題 (教科書 P. 284-285) ・グローバルな課題と日本の役割 ・解決をせまられる国内課題	○国際社会における課題に対する日本の取り組みを理解する。 ○国際社会や日本国内の課題を、身近な問題と関連づけてとらえ、その解決について考え、表現する。	知識・技能 国際社会における課題に対して、平和で持続可能な社会の実現に向けてこれまで日本がどのような取り組みをしてきたかを理解している。 思考・判断・表現 国際社会における課題や日本国内の課題を身近な問題と関連づけてとらえ、解決に向けてどのようなことができるか考え、表現している。
-	【歴史を掘り下げる】 冷戦終結後の近隣諸国との関係 (教科書 P. 286-287)	○日本が抱える近隣諸国との問題について、これまでの歴史や外交と関連づけて理解する。 ○領土問題について、歴史的な経緯や原因に着目し、	知識・技能 日本が抱える領土問題や賠償問題について、これまでの歴史や外交と関連づけて理解している。 思考・判断・表現 領土問題について、歴史的な経緯

		解決に向けて求められることについて考え、表現する。	や原因に着目し、解決に向けてどのようなことが求められるか考え、表現している。
※	【でかけよう！地域調べ】 公害克服の歴史を調べる (教科書 P. 288-289)	○公害克服の歴史やそれを生かした取り組みについて、資料を活用しながらまとめる。 ○北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みについて、多面的・多角的に考え、表現する。	知識・技能 公害克服の歴史やそれを生かした国際的な取り組みについて、資料を活用しながらまとめている。 思考・判断・表現 北九州市の公害克服の歩みを土台にした環境問題への取り組みの良さについて、考え、表現している。
117	【まとめとふり返し】 (教科書 P. 290-291) 編の学習を確認し、「現代」の特色をつかもう！	○編の問いについて考察したことをふまえて当時の国内外のできごとに着目し、現代の特色を多面的・多角的に考え、表現する。 ○単元全体の自己の学習をふり返し、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く「歴史との対話」を未来に活かす学習へつなげる課題意識を醸成する。	思考・判断・表現 編の問いを考察する活動と戦後に日本で起きたことを整理する活動を通じて、できごとに着目し、現代の特色を多面的・多角的に考え、表現している。 主体的に学習に取り組む態度 第6編における自己の学習の経過をふり返し、学習状況や達成度を適切に自己評価し、続く「歴史との対話」を未来に活かす学習へつなげる課題意識を醸成することができている。

「歴史との対話」を未来に活かす

学習指導要領の内容：C（2）

『歴史との対話』を未来に活かす』の目標	
<p>○これまでの学習をふまえ、歴史と私たちとのつながりや現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現する力を養う。</p> <p>○現代の諸課題に関する歴史をふり返る活動を通じて、現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもとうとする態度を養う。</p> <p>【単元を貫く問い】 よりよい社会の実現のために、先人の取り組みから何を学び、私たちはどのように行動すべきだろうか。</p>	
<p>用いる評価規準（★評定に未来に活かす」の「歴史との対話」を</p>	<p>思考・判断・表現★ ・これまでの学習をふまえ、歴史と私たちとのつながりや現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度★ ・現代の諸課題に関する歴史をふり返る活動を通じて、現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもとうとしている。</p>

累計時数	学習内容	学習目標	評価規準
118 119	課題例1 災害の歴史に学ぶ (教科書 P. 294-295)	○災害や防災の歴史をふまえ、災害に対して自分たちがどのような行動をとるべきかを、多面的・多角的に考え、構想し、表	思考・判断・表現 災害に対する先人の取り組みから、自分たちがどのような行動をとるべきか、課題意識をもって多面的・多角的に考え、構想し、表現している。

	<p>現する。</p> <p>○災害に対する先人の取り組みをふり返る活動を通じて、防災のための課題を主体的に追究、解決し、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつ。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>この学習を通じて、防災のための課題について主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもとうとしている。</p>
<p>課題例 2 政治参加の歴史に学ぶ (教科書 P. 296-297)</p>	<p>○政治参加の歴史をふまえ、将来国政に参加する公民として、現代の政治参加の課題を多面的・多角的に考え、構想し、表現する。</p> <p>○政治参加の歴史をふり返る活動を通じて、そこにみられる課題をふまえ、自分たちがどのように考え、行動すべきかを主体的に追究、解決し、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつ。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>政治参加の歴史をふまえ、現在の政治参加の課題について、課題意識をもって、多角的・多面的に考え、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>この学習を通じて、現代の政治参加の課題について考え、どう行動すべきかを主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもとうとしている。</p>
<p>課題例 3 世界平和への取り組みに学ぶ (教科書 P. 298-299)</p>	<p>○過去の戦争や平和への取り組みをふまえ、平和を実現する方策について多面的・多角的に考え、構想し、表現する</p> <p>○過去の戦争や平和への取り組みをふり返る学習を通じて、世界平和を実現する方策について主体的に追究、解決し、公民的分野の学習に向けた課題意識をもつ。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>過去の戦争や平和への取り組みについての学習を基に、世界平和を実現するための取り組みについて課題意識をもって多面的・多角的に考え、構想し、表現している。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>この学習を通じて、世界平和を実現する方策を、主体的に追究しようとしているとともに、公民的分野の学習に向けた課題意識をもとうとしている。</p>

